



風流のはじめ館

2023
第14号
1月号

<https://s-furyu.jp/>

曾良の日記による

「芭蕉が見た須賀川の風景」 開催中です。

等躬どの、
ご紹介に
なります。

どうぞ
ごゆるりと
おかつろぎ
ください。

すばらしい景色に
胸がいっぱいにな
ってしまっ、思う
ように句が浮かび
ませんでしたよ。

白河の関いか
がでしたか。
いい句ができ
ましたか？

栗の花のように
ひっそりと生き
ている私の家に
江戸から立派な
俳諧の先生がい
らっしゃった。
もったいない
ことだなあ。

1日目

2日目

前日からの歌仙
を完成させます。
晩に可伸を訪ね、
帰りに岩瀬寺と
八幡社を参詣し
ました。
須賀川に入っ
た芭蕉たちは、
相楽等躬宅に
着きます。芭
蕉、等躬、曾良
で句会を始め、
途中で終わら
れます。

まれに螢の
〜

かくれがや〜

3日目

等躬宅では、田植の
日でした。「旅衣」の
三吟を巻き、可伸宅
で地元の俳人らが
集まって句会がお
こなわれました。

芹沢の滝を
ご案内
しましょう。

6日目

曇の日。芭蕉、曾良、
等躬の各発句を、三
物三組のかたち
にした懐紙を認めま
す。この後、芹沢の
滝へ行きました。

4日目

物忌の日。

芭蕉は、古人の
足取りをたど
り、美しい自然
の景色、史跡、
人に出合うこと
で自分が理想と
する俳諧に大き
く近づいたこと
ができました。

活気のある
まちですね。

7日目

連日の雨のため増
水で川を渡れず出
発を延期します。
十念寺、諏訪明神
を詣りました。

雨の日。

宗匠、
たのしい
ひととき
でしたね。

この上なく
ありがたい
時間でしたね
曾良さん。

8日目

快晴。須賀川を発
ち、馬で乙字ヶ滝
に向かい、見物
後、守山に向かい
ます。

等躬宅に滞在。
杉山杉風に手紙
をかきます。

5日目

煎茶をはじめ、いろいろな茶葉の美味しい淹れ方や作法を学びます。
穏やかなもてなしの心に触れてみませんか？

講師

平尾貴園
(須賀川茶道連合会/煎茶道方円流)

2/11(土)
2/18(土)

暮らしの中に
もっと日本茶を

おいしい煎茶部

すかがわ大人塾

2月

冬の風物詩 だんごさし



だんごさし

団子や鯛、米俵、大黒様や恵比寿、大判小判などをミズキの枝にさして飾り、一年の農作物の実りや幸せを願う小正月の行事です。

1/14(土)



すかがわ昔話の会のご協力により、かぼちゃ、よもぎ、ピーツで色づけた団子を丸めて、季節の和文化に親しみました。

つけペンで絵を書いてほんの少しのお手紙を書きます。つけペンの世界に触れてみませんか

講師

増子史楼 (ましこしろう)
本名：沙綾。書道教室(玄粒書道会)、書を楽しむ空間として「書と珈琲『珈琲46』」を営む。



つけペンで
お手紙をかこう

展示品の紹介



句幅 枯れる百日紅の青空の仰がるる

碧梧桐

■河東碧梧桐 かわひがしへきごとう
碧梧桐は高浜虚子とともに、正岡子規の同郷の高弟です。子規の「写生論」を徹底した「新傾向俳句運動」を推し進めました。碧梧桐は、書家としても名を馳せ、その書体は現在でも人気があります。

この句の総音数は19音です。俳句の定型からややみ出していますが、そのはみ出しが冬の百日紅が仰ぐ青空の広さへ、読むものを誘ってくれます。碧梧桐の自由な書体もぜひお楽しみください。

百日紅(ひやくじつこう)
さるすべり
本筆の季語は「枯」で冬になります。

ことば
言祝ぎ

言葉で祝うことを意味します。古来より日本は「言葉の幸わう国」といわれ、言葉には現実をあやつる言霊思想があります。美しい心から生まれる正しい言葉は、言葉とおり良いことが実現すると信じられていました。

言の葉

なんてん
南天

冬になると紅い実をたくさんつけます。「難を転じる」に通じるので、厄除けのお守りにされました。

うさぎ
兔

「兔狩」が冬季に行われたことより冬の季語となっています。

俳句募集

募集期間 通年
選句会 年2回(8月 2月)
部 門 一般の部・子どもの部
学校の部

第二回選句会
年間選句会

1/30(月)です。

発表は、2月中旬を予定しています。

市内21カ所にポストを設置しています。詳しくは当館までお問い合わせください。